

ノルベルト・エリアス（日本語文献）

（１）翻訳図書

- 『文明化の過程』（上） 赤井慧爾ほか訳（法政大学出版局、１９７７）
『文明化の過程』（下） 波田節夫ほか訳（法政大学出版局、１９７８）
『宮廷社会』波田節夫ほか訳（法政大学出版局、１９８１）
『死にゆく者の孤独』中居実訳（法政大学出版局、１９９０）
『モーツァルト』青木隆嘉訳（法政大学出版局、１９９１）
『参加と距離化』波田節夫ほか訳（法政大学出版局、１９９１）
『社会学とは何か』徳安彰訳（法政大学出版局、１９９４）
『スポーツと文明化：興奮の探求』大平章訳（法政大学出版局、１９９５）
『時間について』井本响二ほか訳（法政大学出版局、１９９６）
『ドイツ人論』青木隆嘉訳（法政大学出版局、１９９６）
『諸個人の社会』宇京早苗（法政大学出版局、２０００）
『定着者と部外者』大平章訳（法政大学出版局、２００９）

（２）研究図書

〈１９９３〉

菊幸一『「近代プロ・スポーツの」歴史社会学』（不昧堂出版）２３８頁

〈１９９５〉

澤井敦「マンハイムとエリアス：知識社会学の忘れられた系譜」『社会構造の探求：現実と理論のインターフェイス』笠原清志ほか編（新泉社）３３８－３５６頁

〈１９９６年〉

田中義文編『関係の社会学』（弘文堂）２４３頁

奥村隆『エリアス：暴力への問い』（勁草書房）３５３頁

〈１９９７〉

菊幸一「スポーツ・ファンの暴力」杉本厚夫編『スポーツ・ファンの社会学』（世界思想社）２２７－２４９頁

〈2001〉

菊幸一「体育と暴力」杉本厚夫編『体育教育を学ぶ人々のために』（世界思想社）
104-122頁

〈2002〉

山下高行「グローバリゼーションとスポーツ：ノルベルト・エリアスとジョゼフ・マグアイアの描く像」『スポーツ』有賀郁敏ほか編（ミネルヴァ書房）365-387頁

菊幸一「サッカーを愛する人たちとラグビーを愛する人たち」鈴木秀人ほか編『スポーツの国イギリス』（創文企画）139-162頁

〈2003〉

大平章編『ノルベルト・エリアスと21世紀』（成文堂）246頁

〈2006〉

大原あゆみ「ノルベルト・エリアスの歴史社会学的再帰性：〈参加と距離化〉とフィギュレーション」新原道信ほか編『地球情報社会と社会運動：同時代のリフレクシヴ・ソシオロジー』ハーベスト社：100-115頁

〈2008〉

菊幸一「スポーツと暴力」加藤尚武編集代表『応用倫理学事典』（丸善）870-871頁

〈2009〉

大平章編『ノルベルト・エリアスとグローバリゼーション：スポーツ・文化・社会』（DTP出版）208頁

〈2010〉

菊幸一「暴力の抑制」井上俊ほか編『身体・セクシュアリティ・スポーツ：社会学ベーシック8』（世界思想社）219-228頁

内海博文『ノルベルト・エリアスの社会理論の探究』（刊行予定）

内海博文「文明化（エリアス）」『社会学事典』（刊行予定）

（3）博士論文

〈1988〉

菊幸一「近代日本におけるプロ・スポーツの成立形態とその社会的条件に関する研究」（筑波大学・教育学）

〈1999〉

坂なつこ「ノルベルト・エリアスの初期理論研究：特に歴史哲学から『諸個人の社会』への変遷における社会学的主題の形成に関して」（立命館大学・社会学）

〈2000〉

市井吉興「文明化過程としての社会構成：ノルベルト・エリアスの社会学的想像力」（立命館大学・社会学）

〈2002〉

内海博文「エリアスの社会理論の研究」（大阪大学・人間科学）

〈2003〉

奥村隆「文明化と暴力の社会理論：ノルベルト・エリアスの問いをめぐって」（東京大学・社会学）

（4）論文・記事・文献紹介・書評

〈1979〉

野村雅一「「文明化」についての試論（上）：ノルベルト・エリアス「文明化」に寄せて」国立民族博物館研究報告4・4：738－769頁

藤本正久〈紹介〉「ノルベルト・エリアス著『文明化の過程』（上）」文明（東海大学）27：53－60頁

南良郎〈紹介〉「ノルベルト・エリアス著『文明化の過程』（下）」文明（東海大学）27：61－71頁

〈1985〉

村主幸一「The Book of the Courtierに見られる宮廷社交について」言語文化論集（名古屋大学）6（2）：127－142頁

〈1989〉

岡田猛「N・エリアスにおける課題としてのスポーツ」体育・スポーツ社会学研究8：51－65頁

佐々木明「人々の日常生活における振る舞いにみる心理機能の社会・歴史的発生：ノルベルト・エリアスの「文明化の過程」に関する理論」社会研究（法政大学）19：67－90頁

菊幸一「スポーツのプロフェッショナルリズム生成に関する歴史社会学的研究序説：戦前におけるプロ野球信条の形成を中心として」*体育・スポーツ社会学研究* 8 : 91 - 117 頁

〈1994〉

Jary, David, Horne, John 著、山下高行訳「スポーツ・レジャー研究における図柄社会学：エリアス、ダニングとそのオルタナティブ」*立命館文学* 536 : 680 - 710 頁

〈1995〉

池井望〈書評〉「フィギュレーション社会学と近代スポーツ：N・エリアス論」*スポーツ社会学研究* 3 : 71 - 76 頁

犬飼裕一「ノルベルト・エリアスと歴史社会学の方法」*年報社会学論集*（関東社会学会）8 : 119 - 130 頁

犬飼裕一「ルイ14世と宮廷社会の社会学：ノルベルト・エリアスの社会像と差異の問題」*現代社会理論研究* 5 : 175 - 184 頁

〈1996〉

金田福男「『感情の文明化』に関する一考察」*関西大学大学院人間科学：社会学・心理学研究* 44 : 1 - 16 頁

澤井敦「「閉ざされた人間」の死：ノルベルト・エリアスの「死の社会学」を題材として」*三田社会学* 1 : 37 - 51 頁

船井広則〈書評〉「N・エリアス、E・ダニング著、大平章訳『スポーツと文明化』」*ひすぼ*（スポーツ史学会）31

〈1997〉

薄葉毅史〈文献紹介〉「The Established and the Outsiders」*教育・社会・文化：研究紀要*（京都大学）4 : 147 - 157 頁

菊幸一「スポーツ社会学の理論的可能性：エリアス派スポーツ社会学と身体/Body」*スポーツ社会学研究* 5 : 15 - 26 頁

〈1998〉

市井吉興「ノルベルト・エリアスと秩序問題：文明化過程・フィギュレーション・相互依存」*立命館産業社会論集* 33（4） : 119 - 132 頁

犬飼裕一「市民社会と宮廷社会：マックス・ウェーバーとノルベルト・エリア

ス」中京大学教養論叢 39 (2) : 1-19 頁

犬飼裕一「歴史の知識社会学：ノルベルト・エリアスによる展開」岐阜経済大学論集 31 (4) : 51-67 頁

内海博文「ノルベルト・エリアスと暴力の問題」ソシオロジ 43 (2) : 3-18 頁

梅林誠爾「社会生活と時間：N・エリアスの時間論の検討」唯物論と現代 22 : 62-77 頁

内海博文〈書評〉「Jonathan Fletcher, *Violence & Civilization: An Introduction to the Work of Norbert Elias*」年報人間科学 (大阪大学) 19 : 281-286 頁

Krüger Michael 著、坂なつこ、有賀郁敏訳「スポーツ及びスポーツ科学に対するプロセス・フィギュレーション理論の意義について：ノルベルト・エリアス誕生100年によせて」立命館産業社会論集 34 (1) : 201-214 頁
坂なつこ「ノルベルト・エリアスの初期研究：1920年代ドイツを背景に」立命館産業社会論集 34 (2) 33-49 頁

〈1999〉

市井吉興「「脱形式化」としての文明化過程：オランダ・エリアス学派による文明化過程論の新展開」立命館産業社会論集 35 (3) : 21-42 頁

内海博文「ノルベルト・エリアスと人間像の問題」年報人間科学 (大阪大学) 20 (1) : 245-255 頁

奥村隆「市民階級の理想と暴力：ノルベルト・エリアスの『ドイツ人論』における「テロリズム」」現代社会理論研究 9 : 1-18 頁

奥村隆「E・エリアス『ドイツ人論』を読む」国際文化会館開放 10 (2) : 15-16 頁

Gleichmann, Peter Reinhart 著、宮田敦子訳 (そもそも何のために私は生きていたのか：ノルベルト・エリアス) 年報人間科学 (大阪大学) 20 (1) : 245-255 頁

坂なつこ「エリアスにおけるスポーツ」京都体育学研究 14 : 9-16 頁

坂なつこ「課題としての歴史哲学：哲学博士論文におけるN・エリアスのカント批判をめぐって」立命館産業社会論集 34 (4) : 67-81 頁

〈2000〉

市井吉興「文明化過程としての社会構成：ノルベルト・エリアスの社会学的想像力」立命館産業社会論集 35 (4) : 13-35 頁

奥村隆「ふたつの「支配の社会学」：N・エリアスとM・ウェーバー」現代社会

理論研究10：37－50頁

大平章「ノルベルト・エリアスについて：その生涯と研究」人文論集（早稲田大学法学部）39：189－217頁

〈2001〉

市井吉興「現代オランダ社会学とエリアス学派：オランダ社会学史におけるエリアス学派の位置」立命館産業社会論集37（1）：91－106頁

内海博文「エリアス社会学における「宮廷社会」論の位置」大阪産業大学論集社会科学編116：37－47頁

川田耕「国家・道徳・主体：17世紀後半の民衆物語にみる自己抑制的主体の登場」社会学評論52（2）：233－249頁

近森高明「ノルベルト・エリアスにおける〈発展〉の概念：認識論的な問題構成をめぐる二重性」ソシオロジ45（3）：3－18頁

〈2002〉

市井吉興「ノルベルト・エリアス：1950－1970：「超領域的人間学への跳躍」立命館人文科学研究所紀要79：109－133頁

市井吉興「ノルベルト・エリアスとアンソニー・ギデンズの社会理論の合体に向けて」立命館言語文化研究13（4）：199－207頁

内海博文「エリアス社会理論の研究」人間科学研究（大阪大学）4：113－127頁

大平章「詩人としてのノルベルト・エリアス」人文論集（早稲田大学法学部）41：67－87頁

菊幸一「身体論からみた武士道とスポーツの近代化：近代スポーツの問題性へのアプローチ」奈良体育学会研究年報6：41－50頁

〈2003〉

市井吉興「ノルベルト・エリアスの社会学的視野：文明化過程・宮廷社会・スポーツ」会報新歴史科学2：1－11頁

荒川敏彦「ノルベルト・エリアスにおける概念史と文化史：歴史社会学の方法論的反省のために」埼玉大学紀要39（2）：66－80頁

大原あゆみ「ノルベルト・エリアスの文明化論におけるフィギュレーションの形成と転換」現代社会理論研究13：1－10頁

奥村隆「自己抑制に関するふたつの視野：エリアスとフーコ」奥村隆編『感情と社会』研究計画報告NO108（千葉大学・大学院社会科学研究所）：95－118頁

小林亜子「表象をめぐる闘い」と「社会的編成」/「歴史の時間」と「文明化の過程」埼玉大学紀要39(2):3-24頁

菊幸一「日本におけるサッカーファンと暴力：日本のサッカーファンはフーリガンになりうるのか」奈良女子大学文学部研究年報46:147-164頁

〈2004〉

奥村隆「吸収の崩壊：感情と現代性と社会学」応用社会学46:33-56頁

坂なつこ「文明化の過程再検討：ノルベルト・エリアスとスポーツのグローバル化」一橋スポーツ研究2004

〈2005〉

市井吉興「オランダにおけるフィギュレーション社会学：苦悶する1980年代」立命館言語文化研究16(3):215-226頁

大原あゆみ「カリスマとその外部：ノルベルト・エリアスにおけるカリスマ論の展開」社会学史研究27:87-101頁

大平章「『定着者と部外者』におけるノルベルト・エリアスの理論的革新性」ワセダ・グローバル・フォーラム2:67-78頁

〈2006〉

大平章「シンボルの理論におけるエリアス社会学の意義：言語・知識・芸術・科学」ワセダ・グローバル・フォーラム3:71-82頁

原田太津男

「近代の社会：人間像批判と社会科学の方法論的刷新：N・エリアスを読む」BOEKIFU：中部インターナショナル・レビュー1:388-391頁

〈2007〉

大原あゆみ「ノルベルト・エリアスにおける Individuum の概念：固体と個人」社会学史研究27:57-71頁

奥村隆「不条理としての社会、無根拠としての社会」応用社会学46:103-116頁

〈2008〉

荒川敏彦「過程としての文明化と個人化：ノルベルト・エリアスの〈プロセス—フィギュレーション理論〉」社会学史研究30:87-102

大原あゆみ「ノルベルト・エリアスの文明化論：歴史的過程と社会構造の結節点」創文(510):15-18頁

大平章「ノルベルト・エリアスとモーツァルト：若き音楽家の肖像」ワセダ・グローバル・フォーラム 4：69－81頁

〈2010〉

大平章「ノルベルト・エリアスの『文明化の過程』について」ワセダ・グローバル・フォーラム 6：207－237頁